



第207号
発行
奥多摩町教育委員会

第29回 奥多摩展 (児童・生徒 図工・美術・書写展)

今年で29回を数える奥多摩展は、昭和63年から続く展覧会です。町内の小学生と中学生の全員の作品を町内の皆様に見ていただくことを目的としています。

昨年からは会場を例年行っていた奥多摩文化会館から奥多摩中学校体育館に移し、日々の学習の成果を展示しています。

古里小学校は、各学年平面作品、立体作品を一点ずつ出品しました。氷川小学校の児童と一緒に作った縄文風土器や国語で学んだ昔話「こぶとりじいさん」をちぎり絵で楽しく表現したりしました。進級進学を意識するこの時期に、自分自身を表す作品も多く展示されていました。また、地域の方や中学校の先生と連携を図りながら、作品作りにも取り組んできました。

氷川小学校は、奥氷川神社の三本杉の絵など奥多摩ならではの作品もありました。また、自分で考えたエネルギーについて電気コードを使って想像

を膨らませて表現した作品など、個性溢れる作品が並んでいました。

今回は、古里小学校と氷川小学校の全児童で共同制作した「川とつながる流れに」をギャラリーに展示しました。多摩川の流れを中心に、全児童で自分の姿や動植物など、多摩川の豊かな流れを表現したダイナミックな作品でした。

また図工の作品だけでなく、一文字ずつ丁寧に書いた硬筆や毛筆の書き初めも展示しました。両校の全児童の作品が舞台一面に広げられました。会場に入ると、目に飛び込んできて、圧巻でした。

奥多摩中学校は、美術科・技術科・家庭科の作品に限らず、各教科や各学年における日頃の学習内容が分かる内容となりました。修学旅行の体験記や歴史新聞など、幅広い展示がされていました。プレゼンテーションソフトを使った映像作品は注目を集めています。また、ランプシェードやデッサン

平成29年2月1日現在

児童数	134名
生徒数	82名
教職員数	47名



会場全体の様子



古里小 展示スペース

など、大人顔負けの作品も数多く並び、来場者の方も驚いていました。今年度も、広い体育館いっぱいには展示された作品の数々に多くの感想が寄せられました。「小学校1年生から、中学校3年生までの9年間の成長が作品を通して伝わってきました」との声や、「子どもたちの日頃の頑張りを感



奥多摩中 展示スペース



氷川小 展示スペース

じ、「元気づけられました」「来年も楽しみにしています」など、たくさん温かい感想をいただきました。これからも、時間をかけて作った作品を一人でも多くの奥多摩の皆様にご覧いただき、子どもたちの成長を感じてもらいたいと思っております。

6年生交流学習(社会科見学)

1月17日(火)に、古里小6年生と氷川小6年生が一緒に社会科見学を行いました。今回は、国会議事堂、憲政記念館、江戸東京博物館の3つの施設を見学してきました。

今回は、事前学習を合同で行う時間が取れず、バスの中で見学グループの顔合わせとなりました。しかし、子どもたちは、今まで何度も交流学



国会議事堂前にて集合写真(古里小)



国会議事堂前にて集合写真(氷川小)

習を重ねてきて、お互いのこともよく分かっていきます。すぐに、今日のめあてについて話し合いを始め、仲良く談笑する様子が見られました。国会議事堂まで、2時間近くのバスの中は、あちらこちらから笑い声が聞こえる和やかなものでした。

国会議事堂では、荘厳な雰囲気建物に圧倒され、国の立法機関であることを実感しました。また、憲政記念館では、国会の歴史などについて学習し、現在学習している政治についてよいまとめを行うことができました。江戸東京博物館では、江戸時代から現代までの生活の変化を追いながら、2学期まで学習していた歴史についても一度振り返りをしました。籠に乗ったり、昔の道具を触ってみたりするなど、一つひとつのコナーに興味をもって見学しました。

今回で外に出かける交流学習は最後でした。2月の中学校体験が終われば、次に会うのは、いよいよ中学校の入学式です。中学校へのスムーズな移行を考えて行ってきた交流学習ですが、今回の子どもたちの様子を見ていて、既に1つのクラスのように活動することができていて、今までの積み重ねを強く感じました。中学校でよいスタートを切り、ますます活躍することができるよう、卒業までの一日一日を大切に過ごしていきます。

「吹雪のちピーカン」

1月24日から26日まで、奥多摩中2年生が新潟県湯沢町の岩原スキー場で宿泊体験学習を行いました。当日の朝は、まだ雪の装いが想像できない奥多摩を出発し、途中バスレクなどをしながら新潟に向かいました。長い関越トンネルを抜けると、それまでとは全く違う雪景色というか吹雪模様になり、みんなの驚きの声が上がりました。

雪の舞う中、インストラクターの方が登場し、いよいよスキー講習が始まりました。雪がやむことを期待しつつ、それぞれの班に分かれて講習が始まりました。結局終日、過酷なコンディションではありましたが、子どもたちはインストラクターの指示をしっかりと聞いて、レベルにあった講習をこなしていきま

た。ふかふかの新雪に身動きが取れなくなったり、その新雪のおかげで転んでも痛くないんだという実感を大自然の中で体験できたようです。1日目の夕食の後、湯沢町観光協会の方を講話として、湯沢町の歴史や町の活性化に向けた取り組みなどについて、興味深いお話を聞きました。2年の協働の時間のメインテーマ「奥多摩イノベーション」の学習に向けて大変参考になる内容で

した。2日目の午後には、初心者もかなり滑れるようになり、子どもたちの柔軟な学習能力をうかがうことが出来ました。この日もずっと雪が降り続き、視界が悪い状況でしたが、みんな協力し、励まし合いながら協働してスキーの技術を磨きました。一人ひとりの上達ぶりに、インストラクターの先生方も驚くほどでした。この日の夜はレク係を中心にみんなで大いに盛り上がり、交流を深めました。最終日は、それまでの吹雪模様が嘘のようなドピーカン。今シーズン一、二を争う絶好のスキー日和です。抜けるような青空と白銀のゲレンデが子どもたちを待っていました。「まさに2日間頑張った子どもたちへのご褒美ですね。」とインストラクターの先生もおっしゃっていました。ピシッと整備されたゲレンデに思い思いのシュプールを描きながら、子どもたちはスキーの楽しさを存分に堪能しているようでした。

今回の岩原宿泊体験学習で学んだ事や課題をしっかりと振り返って、今後の学校生活に活かしたいと思います。



ゲレンデにて集合写真

中学生人権作文

「全国中学生人権作文コンテスト」で、奥多摩中3年生の大串美音さんが作文委員会賞に選ばれました。受賞された作品を紹介いたします。



『ハンセン病と人権』

皆さんは、「ハンセン病」を知っているだろうか。ハンセン病とは、らい菌によつて起こる病気だ。感染しても多くの人が自然に治癒する可能性が高いと言われる。発症すると、皮膚に斑紋ができる。また、治療が遅れると顔や足、腕などが変形して後遺症が残る場合もある。現在、日本人の発症は少なくなっている。

私が人権について考えたときに浮かんできたのは、少し前に読み終わった「あん」（ドリアン助川著）という本だった。この本は、ハンセン病のおばあさんが出てくるお話だ。舞台は小さなどら焼きのお店。そこで、あん作りの腕を買われ雇われたおばあさんによって、店は徐々

に繁盛していく。しかし、そのおばあさんは手が不自由で指が曲がっていた。その手はハンセン病によるものだった。店長さんは、おばあさんに接客をさせないようにしていた。しかし、そのことはどこから漏れたのか、街のひとたちに広まってしまった。その後、おばあさんはお店を辞めてしまった。このあとも話は続く。しかし、私が最も驚いたのは今の場面だった。「手が不自由だから」「ハンセン病は怖いから」そんな理由で差別はあつという間に出来てしまったのだ。

世の中の人々は普段の生活の中でも「障がい者」「健常者」と区別をしていることが多い。果たしてこれは良いことなのか。疑問に思い、差別と区別のそれぞれの意味を調べた。差別とは、特定の人、ものを不当に低く扱うこと。区別とは、違いによつて他と分けること。私がこのような意味から考えたのは、ハンセン病は長いあいだ、日本の国民から差別されてきたということだ。

そのように考えた理由は今までのハンセン病の歴史にある。「あん」を読んでから、「ハンセン病を生き延びて―きみたちに伝えたいこと―」（伊波敏男著）という本を読んだ。そこには、今までのハンセン病の歴史が多く書いてあった。あまりに残酷で、強い衝撃を受けた。まず、ハンセン病と告げられると、早くに近くのハンセン病療養所に収容された。そこ

で、自分の本名ではなく新しい名前を与えられた。理由は、ハンセン病の患者の親類縁者に害が及ばないようにするためだった。こうして、ハンセン病療養所に収容された人々は生きたまま、存在が消えてしまった。その後、多くの人は高校で学ぶことも出来ず、小さな療養所の中で一生を終えてしまった。そのような状態は一九〇七年の「癩予防二関スル件」の制定から一九九六年の「らい予防法」の廃止まで九十年間続いたのだ。しかし、一九四七年にはハンセン病を治す薬「プロミン」が使用され、

多くの人がハンセン病を治すことができていた。それなのに、なぜ、長く隔離状態が続いたのか。私はそれが不思議でならなかった。治つたのであれば早くに療養所を無くし、社会へ復帰して故郷で、家族と共に生きることができたと思う。一方で、長年家族と離れていたことが絆を壊す原因にも繋がつたのだと思う。つまり、ハンセン病を発症してからの差別と家族との絆の崩壊がこのような状態に結びついていったのだと考えた。

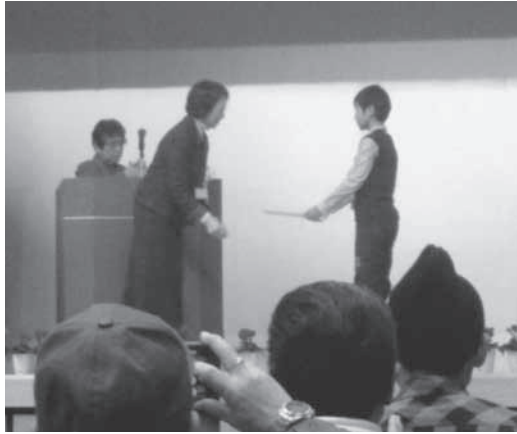
ここで疑問に思ったことがもう一つある。それは、ハンセン病に関する情報が少ないということだ。私自身、ハンセン病について知っていたことはごくわずかだった。ハンセン病は数年前まで、問題になつていなかったのに、話題に上がることは少なかったように感じる。それは日本

にとつて負の部分が多かったからではないかと思う。日本は日本国憲法で基本的人権の尊重を三大原則の一つにしている。日本国憲法が施行されたのは一九四七年でありその年には「プロミン」も使用されていた。ならば、その年には「癩予防二関スル件」も廃止できたはずだ。廃止せずに隔離状態を続けたのは憲法違反であると思う。ハンセン病の患者の人権を長く侵害していたからだ。これは日本人の大きな過ちであると思う。この過ちを日本の国民は知っていたはずだ。ならば、早くそのことを認めて、ハンセン病の患者を解放するべきだったのだと思う。

日本は今、治安もよく、平和な日々を過ごせている。しかし、昔は人権侵害という国民を巻き込んだ差別が起きていたことを忘れてはいけない。日本人は、間違つたことをしていると分かつていても複数人で行うほど、それを認めて、声を上げる人が少ないと思う。私はこれから、明らかにおかしいことを放つておくのではなく、「おかしい」と声をあげることでできる人になりたい。人権は、絶対に守らなければならない権利だ。その権利を主張することも大切なことだと思う。自分が辛いときに声をあげること。誰かからの小さな声をくみとること。お互いに助け合つていくことが、人権を守ることへ繋がると私は考える。

子どもからの人権 メッセージ発表会

昨年12月10日に日の出町やまびこホールで開催された発表会で、水川小6年生の武内大和君が人権メッセージを発表しました。その発表内容を紹介します。



『人権を守るために』
ぼくが人権について考えたことはいくつかあります。「いじめ」「虐待」「差別」などです。どうしてかというところ、ニュースや新聞で、「中学生がいじめにあつて自殺してしまつた。」という事件を知つてしまつたからです。「いじめ」は、人の大切な命をうばつたり、楽しいはずの学校生活をうばつてしまうのがこわいと思ひました。

ぼくは、こういうニュースを見るまでは、あまり「いじめ」や「人権」のことなど考えた事はありませんでした。それは、これまで安心して暮らしたり、学校生活を送つてきたからです。

僕の学校では、明るく仲良く楽しくを合い言葉にみんなで取り組んでるので自分には「いじめ」は無関係で、深く考えてきませんでした。

しかし、世の中には、「いじめ」で安心して暮らせず、そのせいで自分に自信がもてず、何にもできなくなり、自由に行動できなくなつていく人があることを知りました。とても悲しいことだと思います。

ぼくは、「いじめは、いやだとはつきり言うこと。」「いじめを見て見ぬふりをしないこと。」「そして「どうしたらいいか相談すること。」が大切だと思ひます。特に親や先生に相談することは、他の二つのことより、すぐにできると思ひます。はつきり言つたり、見て見ぬふりをしないことは、とても勇気がいることで人によつてはできないかもしれませんでも自分のお父さんやお母さん、先生には言えるのではないでしょう。それが「いじめ」をなくす第一歩になると思ひます。
自分もこれから先のこととはわかりませぬ。ただ誰に対しても公平で優しく接することのできる中学生になり、大人へ成長していくことが、人権を守ることに繋がると思ひます。

東京都小学生科学展

1月13日から16日まで江東区・日本科学未来館にて開催された東京都小学生科学展で、古里小6年生の川田心希君が14日に『物の落ちる速度』というテーマで研究結果を発表いたしました。その発表の様子を紹介いたします。

研究テーマ
物の落ちる速度
東京都立古里小学校
6年 川田心希

1 < 研究の重要性 >
私たちは、物が落ちるのを見て、いろいろの速さで落ちることに気が付きました。落ちる速さは、何かに関係しているのかなと気が付きました。そこで、このことについて調べることにしました。

2 < 予想 >
① 重さは、重い方が速く落ちると思ひます。
② 先に落ちていたからで、先に落ちていたからで、
③ 大きさは、関係ないと思ひます。
④ 重さと同じにすれば、落ちる速さは、変わらないと思ひます。

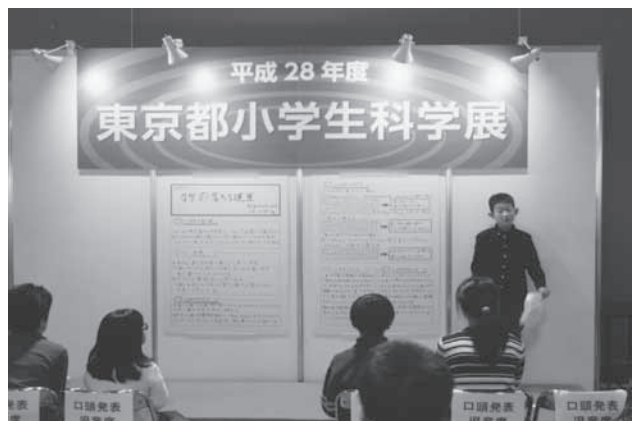
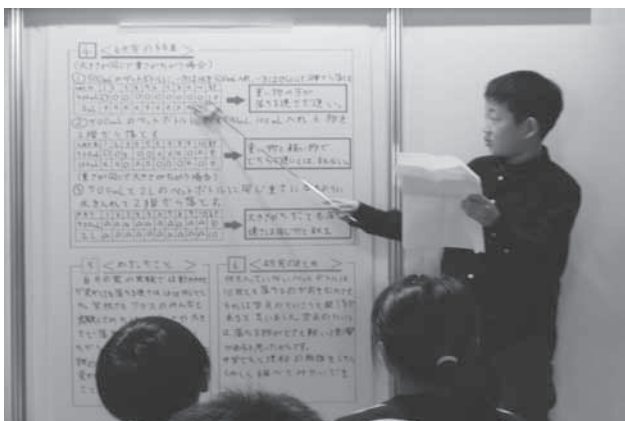
3 < 研究の方法 >
① 重さで測るのと同じ重さで、500mLのペットボトルに、40gの重さの水を入れて、2層へ入る。
② 大きさを測るのと同じ重さで、500mLのペットボトルに、2Lの水を入れて、同じ重さにして測る。

4 < 研究の結果 >
(大きさが同じで重さが違う場合)
① 500mLのペットボトルに、重さは500mLの水を入れて、2層から落とす。
② 500mLのペットボトルに、重さは500mL、100mLの水を入れて、2層から落とす。
③ 500mLと2Lのペットボトルに、同じ重さになるように、水を入れて、2層から落とす。
④ 大きさが同じでも、落ちる速さは同じだと分りました。

5 < わかったこと >
自分の家の実験では、重い方が落ちる速さは、軽い方が落ちる速さよりも遅い。学校の実験では、重さで測ると、落ちる速さは、同じ重さで測ると、落ちる速さは、同じだと分りました。

6 < 研究のまとめ >
何を入れているペットボトルは、10回も落ちるの時間を測りました。それは重さの重い方が落ちる速さがあると思ひました。重さの重い方が落ちる速さがあると思ひました。重さの重い方が落ちる速さがあると思ひました。重さの重い方が落ちる速さがあると思ひました。

研究作品



当日の発表の様子

**故師岡将夫氏のご遺族が
図書室用備品などを寄贈**

昨年5月に逝去された元氷川中学校長の故師岡将夫氏のご遺志と葬儀のお香典の一部から、次の品が奥多摩中学校に寄贈されました。

- ・ 図書室で使用使用するテーブル6台と椅子18脚
- ・ 体育大会等の屋外で使用使用するテント1張
- ・ 合計約80万円相当になります。ありがとうございます。



→ 寄贈されたテーブルと椅子



歯を大切にしましょう



毎年、春と秋に行っている歯科健康診断で奥多摩町の児童・生徒のうち約50%に虫歯があるとの結果が出ています。各学校では健康診断が終わった後、『歯・口の健康診断結果のお知らせ』（治療勧告書・右図）という書類を作成し、保護者宛にお渡ししています。治療の必要があるとお知らせがあった場合は歯科医院を受診してください。治療の必要があると通知された児童・生徒のうち、治療をして学校へ診断結果を提出した児童・生徒は3校平均で46.3%（平成27年度）に留まっています。

また、経過観察では必ずしも受診する必要はありませんが、ご不安でしたら歯科医院を受診してください。もし、お困りのことがありましたら、各学校の養護教諭までご相談、ご確認ください。

乳歯が虫歯になっている場合「いずれ永久歯に生え変わるから大丈夫」と治療しないままにしていると、後から生えてくる永久歯の歯並び等に悪影響を及ぼします。また、永久歯が虫歯になって長い間放置していると、ひどい場合は抜歯をしなければならなくなるだけでなく、全身の健康にも影響を及ぼします。

各学校では、学校歯科医または歯科衛生士をお招きして歯みがき指導や、給食後の歯みがきを行っています。また、平成29年度には小学校2校で『全国小学生歯みがき大会』への参加を予定しております。

改めてお子さんの歯みがきの様子を確認していただき、食事や規則正しい生活習慣に留意し、虫歯にならないようご家庭で話し合ってみましょう。

平成 年 月 日
奥多摩町教育委員会
奥多摩町立 学校長

歯・口の健康診断結果のお知らせ

保護者様

この歯の口・口の健康診断結果は、以下のとおりです。

異常なし	健康診断の結果は、以下のとおりです。
経過観察	歯の健康診断の結果は、以下のとおりです。
治療が必要	歯の健康診断の結果は、以下のとおりです。

下の欄の○のある人は、早めに治療や検査を受けられることをおすすめします。
なお、受診結果を主治医に記入していただき学校へ提出してください。

受診をすすめます	経過観察	異常なし
むし歯 (C)	乳歯のむし歯 (CO)	乳歯のむし歯 (CO)
歯肉の炎症	歯肉の炎症 (G)	歯肉の炎症 (G)
歯肉・結合の不正	歯肉・結合の不正 (G)	歯肉・結合の不正 (G)
顎関節の異常	顎関節の異常 (G)	顎関節の異常 (G)
顎関節痛	顎関節痛 (G)	顎関節痛 (G)
歯肉の腫れ	歯肉の腫れ (G)	歯肉の腫れ (G)
その他	その他 (G)	その他 (G)

【歯科医察】
お平帳ですが、診断結果をご記入のうえ、本人にお渡しください。お断りいたします。

診断結果

診断名
治療法
経過観察
平成 年 月 日
医師名

(保護者から)



1月9日に奥多摩町福祉会館にて新成人33名が出席し、成人の日の式典が行われました。今年の新成人は、平成8年4月2日から平成9年4月1日までに生まれた方で、41名の方が対象となっていました。式典では「コールやまぶき」の方々によるお祝いのコーラスや、出席者全員による校歌の合唱も行いました。また、式典後は新成人代表による進行で、保育園・小学校・中学校の恩師の先生方やご家族の方も交えて、懇親会が盛大に行われました。

ご成人
おめでとございませす



奥多摩スキークラブの皆さんと参加者一同

1月27日から28日の日程で新潟県・石内丸山スキー場で行われました。スキー教室当日の28日は天候にも恵まれました。小学校4年生から6年生の参加者14名を、技術レベルと経験回数によってクラス分けし、奥多摩スキークラブの皆さんの指導のもと、全員がスキーを上達させることができました。初めて体験した子どもたちも次第に滑れるようになり、楽しい時を過ごしました。関係者のみなさん、ご協力ありがとうございました。

小学生スキー教室



平成28年度生涯学習事業・ジュニア育成地域推進事業『オリンピックによる講演会』が行われました。2月5日に奥多摩文化会館・視聴覚室にて2008年に行われた北京オリンピックにシンクロナイズドスイミングのチーム競技選手として出場し、5位入賞の経歴を持つ石黒由美子氏を講師としてお招きし、『夢をあきらめない』と題してご講演をしていただきました。石黒氏は、幼い頃に遭遇した交通事故による様々な後遺症に苦しみながらもオリンピック出場を目指し、見事北京オリンピック出場を果たした経験から、大変貴重なお話しをしていただきました。『諦めなければ道は必ず開かれる』

講演会



昨年の様子

東京都指定無形民俗文化財である「川野の車人形」の公演が奥多摩水と緑のふれあい館にて開催されます。
 【日時】3月12日(日)
 午前11時30分
 午後1時30分
 午後1時30分
 【演目】東山朝倉草紙 甚兵衛渡場の段(午前11時30分)
 東山朝倉草紙 当吾子別の段(午後1時30分)
 ※各回30分程度の公演です。
 【問い合わせ】奥多摩水と緑のふれあい館 086-2731
 入場無料ですので、皆様のご来場をお待ちしております。

川野の車人形公演開催

図書館より新しい本のご紹介

一般書

しんせかい(芥川賞)

山下 澄人著 新潮社

蜜蜂と遠雷(直木賞)

恩田 陸著 幻冬社

恋のゴンドラ

東野 圭吾著 実業之日本社

やめてみた。

わたなべ ぽん著 幻冬社

幻庵(上・下)

百田 尚樹著 文藝春秋

山猫珈琲(上・下)

湊 かなえ著 双葉社

児童書

だるまさんシリーズ(が・の・と)

かがくいひろし作 ブロンズ新社

江戸のお店屋さん①②③

藤川 智子作 ほるぷ出版

なつみはなんにでもなれる

ヨシタケ シンスケ
作 P H P 研究所

だじゃれ十二支

中川 ひろたか文 世界文化社



各学校の卒業式・入学式

卒業式

・古里小学校

3月24日(金) 午前9時30分

・氷川小学校

3月24日(金) 午前9時45分

・奥多摩中学校

3月17日(金) 午前9時30分

入学式

・古里小学校

4月6日(木) 午前10時30分

・氷川小学校

4月6日(木) 午前10時

・奥多摩中学校

4月7日(金) 午前10時

教育相談室より

私たちはよく「しつけ」と言いますが、具体的には何をすればよいのでしょうか。

しつけについて、教育者で哲学者でもある森信三という方が「しつけの3原則」を提唱しています。その中の一つに「履物は、ちゃんと揃える」ということを挙げています。

私は古里小学校で5年間、勤務させていただきました。子どもたち、家庭、地域の皆さんのすばらしさをたくさん感じさせていただきました。その中の一つに、この履物を揃えるということがあります。

親の気持ち 子の気持ち

教育相談室長 井上 英二

ですが、この時にもその様子がしっかりと見られるのです。部屋の入口に置かれている上履がいつもきちんとは揃っているのです。少し乱れていても、少ししてから見回ると、きちんとは揃っているのです。「気が付いた子どもが黙って揃えてあげる」ということもしっかりとできています。こんな場面からも、他の人の気持ちを思いやる気持ちが育っているんだなど、いつも嬉しく思っています。靴やスリッパの脱ぎ方、揃え方からも、その子のしつけの様子を垣間見ることができるようになります。

前述の「しつけの3原則」では、そのほかに「あいさつは自分から先にする」、「名前を呼ばれたら『ハイ』と返事をする」を挙げています。こんな簡単なことでもいいのかと思います。この3つが人間の生き方の基本であり、この3つが身に付いたら、しつけができるようになるというのです。

ところで、しつけという漢字は「躰」と書きます。「身が美しい」と書きます。この漢字は、中国にはないのです。

美しいふるまいを身に付けることは、生き方を正しくし、精神を鍛えることにも通じるのではないのでしょうか。

朝の職員の打ち合わせが終わると、玄関の靴箱を見て回るようにしていました。欠席の様子を知るためです。欠席が続いた時などには、担任にその理由を確かめるようにしていました。見回っていて、とにかくほぼ全員の子どもが靴をきちんと揃えていたので、靴の置き方で登校時や玄関から教室に向かう時の子どもの心の様子を感ずることができました。きちんと揃えて置いてある子は落ち着いた気持ちで授業に臨むことができています。これだけではありません。4年生から宿泊を伴う行事を実施していま

郷土奥多摩(文化財)

その4 白髭大岩

文化財保護審議会委員 梶谷 義明

今回の郷土奥多摩(文化財)の紹介は白髭大岩です。この大岩の前にたたずむと、まず自然の持つ雄大な造形美に感動し、次にこの景色の成因の謎に思いが馳せると思います。この紙面をお借りして、私の専門分野の岩石・地質の視点から、中学生でも理解できる内容で紹介することにします。

白髭大岩は奥多摩駅から奥多摩湖に向かう、十キロメートル弱の「むかし道」の中程の境集落を過ぎたあたりにあります。「むかし道」は、新日本歩道紀行100選にも選ばれ、多くのハイカーに親しまれています。奥多摩観光協会発行の「奥多摩山里歩き絵図」(NO14・境)を片手に十一月の紅葉のきれいな時期に訪れてみると、軽装のカップルや装備のしっかりした数人のグループやガイド付きのグループなどで賑わっていました。

白髭大岩は幅四十メートル、高さ三十メートルの石灰岩の大露頭です。想像もつかない力が岩盤に加わり、石灰岩が切り取られるように隆起して(逆断層という)出来た絶壁です。遠くからは平らに見えますが、近くで見ると岩盤がずれ上がる時の擦痕がしっかりと

確認できます。このように断層面がはつきりと、しかも大規模に露出しているものは地質学的にも貴重であり、東京都の天然記念物として指定されています。



白髭大岩が覆いかぶさる形で白髭神社が鎮座しています。この大岩に遭遇した先人たちは、自然の巨大なパワーを感じ、神の地として祀ったのでしよう。

この石灰岩の成因と、岩盤が数十メートルもせり上がるメカニズムを、中学校の地理レベルで紐解いてみました。プレート・テクトニクスという言葉をお聞きになったことがあると思います。地球の表面は何枚かのプレートと呼ばれる硬い岩盤で構成され、このプレートが流動性のあるマンツルの上に乗って互いに動いているという学説です。日本はユーラシアプレートと北アメリカプレートに乗っていて、東から太平洋プレート、南からフィリピン海プレートが沈み込むように押し寄せられています。

そのプレート境界に圧力のひずみがかかり、一気に圧力が放出されるとき

地震や断層などの地殻変動が起きます。白髭大岩の滑り量三千メートルは、六年前の東北地方太平洋沖地震の滑り量とほぼ同じですから、当時の地殻変動の大きさが想像されます。



添付した図は、東北地方太平洋沖地震のメカニズムの説明に使われ、解りやすいと思われました。

石灰岩は一億年前頃からサンゴ、ウミユリ、フズリナなどの生物の遺骸が海底に堆積して、千年に数ミリの厚さで成長すると言われています。日本の太平洋沖には陸から流れ込んだ砂や生物の死骸が、時代や場所により種々の層を作ります。この堆積層を乗せて太平洋プレートが大陸プレートの下に潜り込むときに、硬いプレート岩盤に比較的軟らかい堆積層が剥ぎ取られながら盛り上がりつついきます(付加体)。日本列島はこの付加体とマグマの火山活動による岩石で形成され、一万年位前には現在の形になりました。そして、今でも年に数センチというスピードでプレートは動いているのです。

一方、地上では雨や風化で山が削られて海に流れ込む作用が同時進行しています。奥多摩の山は付加体による堆積岩で出来ていますが、長い年月で川に削られ急峻な山と谷川が出来、場所により色々な堆積岩を見ることが出来ます。石灰岩には弱酸性の雨水に溶けるといいう性質があります。白髭大岩のすぐ近くの「むかし道」脇に「弁慶の腕抜き岩」と「耳神様」という奇岩があります。長い年月をかけ雨水が少しずつ石灰岩を溶かして造形したものです。しかし、名前の通り怪力の弁慶が腕を突っ込んで穴をあけたのではと、耳の形をしているのは神様が宿っているというはなしのほうがロマンがあつていいですね。



今回はここまでお付き合いいただきありがとうございます。せせこましい生活の中で、とんでもない長い時間軸の中に、たまには入りこんでみるのも気持ち落ち着いて良いのではと思います。体力増進と精神的リフレッシュのため是非「むかし道」を歩いて「白髭大岩」を見学して下さい。